

# 令和6～8年度つくば市立図書館運営上の指標と数値目標

指標の目標年度 令和8年度

評価期間 令和6年度～令和8年度

## 1 市民サービスに必要な資料を確保し、提供することに関する指標（9項目）

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
1-1	所蔵資料点数	492,183点	490,000点	所蔵資料の収容スペースが限界に近いため、現状の実績値を維持することを目標とする。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館を含む)、分室(※1)、学校図書室(※2)等で所蔵する資料(視聴覚資料・雑誌を含む)の点数。電子書籍は除く。			
1-2	受入資料点数	26,600点	28,000点	蔵書の入替えにより、書架の質を向上させる。中央図書館では年間約15,000冊を除籍している。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館を含む)、分室、学校図書室等で受入した資料の点数(視聴覚資料・雑誌を含む)。電子書籍は除く。			
1-3	個人貸出点数	1,498,017点	1,550,000点	利用者の多様な要求に応えるよう努め、貸出の増を図り、図書館サービスの充実を目指す。令和元年度から令和4年度の増加点数(約53,000点)を考慮し、令和5年度の実績値から算出した。サービスポイントの新設や人口増から、今後も増加が見込まれる。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館・本庁舎コミュニティ棟・かとりだい交流館を含む)、分室、学校図書室等で個人へ貸出した資料の点数(視聴覚資料・雑誌を含む)。電子書籍及び団体貸出は除く。			
1-4	視聴覚資料貸出点数	50,195点	70,000点	近年動画・音楽配信サービス等の普及が進んだためか、著しく減少している。新型コロナウイルス感染症流行前の水準(約70,000点)に戻すことを目標とする。令和7年1月から貸出期間が1週間から2週間に変更になるため、その影響を注視していく。
指標の説明	CD・DVD・VHSビデオ等の視聴覚資料の貸出点数			
1-5	市民一人当たりの貸出点数	5.9点	6.0点	人口20～30万人都市の平均値5.06点(「日本の図書館2022」)を考慮し、現状維持の上、やや増加させるものとして目標値を設定した。
指標の説明	中央図書館(自動車図書館・本庁舎コミュニティ棟・かとりだい交流館を含む)、分室、学校図書室等で個人へ貸出した資料の点数(1-3 個人貸出点数)を9月1日現在の常住人口で除して算出した、市民一人当たりの貸出点数			
1-6	電子図書館へのアクセス件数	31,836件	240,000件	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のID/パスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は約17,000件/月。20,000件×12か月を目標とする。
指標の説明	電子図書館へのアクセス件数			
1-7	電子書籍資料所蔵点数(閲覧可能点数)	3,553点	5,000点	中央図書館における所蔵資料の収容スペースに限界があるため、電子書籍の充実を図ることで図書館サービスの充実を目指す。また、非来館型サービスを提供することにより利用者の利便性の向上を図る。
指標の説明	電子図書館で閲覧可能な電子書籍(年度末時点での有効点数)			
1-8	電子書籍資料貸出点数	13,164点	60,000点	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のID/パスワードを配布したため、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は、約4,500点/月。5,000点×12か月を目標とする。
指標の説明	電子書籍の貸出点数(読み放題パックを除く)			
1-9	電子書籍資料閲覧点数	32,033点	420,000点	令和6年6月に市内児童生徒約23,000人に対して電子図書館用のID/パスワードを配布したため、令和5年度までと比較し、著しく増加することが見込まれる。令和6年9月～11月の平均は、約29,000点/月。35,000点×12か月を目標とする。
指標の説明	電子書籍の閲覧点数(読み放題パックを含む)			

※1「分室」: 中央図書館とシステム上連携している谷田部・筑波・小野川・荃崎交流センター図書室

※2「学校図書室」: 地域に開放し図書館サービスの提供を行う研究学園小学校図書室・みどりの南小学校図書室

2 市全体へのサービスに関する指標（8項目）

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
2-1	来館者数	455,178人	500,000人	新型コロナウイルス感染症流行前の実績(令和元年度: 約560,000人)を考慮し、増加させることを目標とする。一方、サービスポイントが増加したことに伴い、利用が中央図書館以外に分散することが考えられる。
指標の説明	中央図書館に来館した延人数			
2-2	図書館利用カードの実利用者数	31,111人	35,000人	平成30年度以降、30,000人前後で推移している。市民の図書館利用促進に努める。
指標の説明	1年間に図書館利用カードを利用して資料を借りた人数(1人の人が複数回利用した場合は1人と計算。団体貸出を除く)			
2-3	新規登録者数	6,826人	7,000人	毎年度6,000人前後で推移している。転入者や図書館未利用者等に対するPRに努め、図書館利用者を増加させていく。
指標の説明	新たに図書館の利用カードを作成した人数			
2-4	所蔵館以外への返却冊数	167,733冊	185,000冊	サービスポイントや自動車図書館ステーションの増設に伴い、増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。
指標の説明	所蔵館(中央図書館、自動車図書館、分室、学校図書室)以外に返却された図書資料の冊数			
2-5	ブックポストへの返却冊数	58,500冊	65,000冊	サービスポイントや自動車図書館ステーションの増設に伴い、増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。
指標の説明	各ブックポストに返却された図書資料の冊数			
2-6	予約件数	208,444件	230,000件	平成30年度から4交流センター図書室の在架資料が予約できるようになり、大きく増加した。近年は図書館ホームページからの予約等、インターネットサービス全般の利用が拡大傾向にある。サービスポイントの増設によりさらに増加することが見込まれる。
指標の説明	中央図書館、自動車図書館、分室及びホームページからの予約受付件数			
2-7	図書館ホームページへのアクセス件数	825,729件	900,000件	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。令和4年度以降、インターネットサービスの利用拡大と電子図書館サービス(令和4年10月開始)の影響を受け、急速に増加している。
指標の説明	図書館ホームページへのアクセス件数			
2-8	図書館情報紙の発行回数	18回	10回	「ヨモッカ」「こどもヨモッカ」(年2回)、「とじよかんの本」(年4回)、パスファインダー(不定期、年2回程度)を発行・改訂することにより、図書館や資料に対する市民の理解と関心を高める。令和5年度は、パスファインダーの更新等が続き、突発的に発行回数が増加している。
指標の説明	市民向けの図書館情報紙(「ヨモッカ」「こどもヨモッカ」「とじよかんの本」「パスファインダー」等)の発行回数			

### 3 高齢者、障害のある方及び外国の方へのサービスに関する指標（5項目）

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
3-1	大活字本の所蔵冊数	2,845冊	3,000冊	令和5年度の目標値を継続する。徐々に増加傾向にあるが、資料の収蔵スペースが限界に近い。大活字本の計画的な蔵書管理に努め、高齢の方や利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	大活字本の所蔵冊数			
3-2	大活字本の貸出冊数	2,917冊	3,300冊	徐々に増加傾向にある。令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。資料の充実とともに、大活字本コーナーの分かりやすい表示やPRIに努め、高齢の方や利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	大活字本の年間貸出冊数			
3-3	外国語資料の所蔵冊数	11,662冊	12,000冊	令和5年度の目標値を継続する。徐々に増加してはいるが、資料の収蔵スペースが限界に近い。一定以上の水準を維持し、多言語サービスの充実を図る。
指標の説明	英語、中国語、韓国語をはじめとする外国語資料(児童書及び一般書)の所蔵冊数			
3-4	外国語資料の貸出冊数	11,611冊	12,000冊	令和5年度の目標値を継続する。外国語資料コーナーの配架や外国語による掲示等の充実にも努め、外国語資料の貸出増を図る。
指標の説明	英語、中国語、韓国語をはじめとする外国語資料(児童書及び一般書)の年間貸出冊数			
3-5	点字資料の所蔵点数	251点	270点	点訳資料の作成及び収集に努め、所蔵点数増を図り、図書館資料の利用に障害のある方への図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	中央図書館のボランティアが作成した点字資料と購入した点字資料の所蔵点数			

### 4 地域支援サービスに関する指標（3項目）

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
4-1	自動車図書館利用人数	13,841人	14,000人	令和5年度の目標値を継続する。自動車図書館ステーションの見直しや蔵書の充実を図り、適切な周期の運行に努め、図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	自動車図書館(3台)での年間貸出人数			
4-2	自動車図書館貸出冊数	47,583冊	53,000冊	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。自動車図書館資料の充実にも努め、利用者のニーズに応じた本を積載して各ステーションを巡回することで、貸出冊数の増を図る。
指標の説明	自動車図書館(3台)での年間貸出冊数			
4-3	相互貸借貸出冊数	1,420冊	1,500冊	近年、1,500冊前後で推移している。令和5年度の目標値を継続する。利用者が求める資料で中央図書館が所蔵していない資料について、他の図書館と連携して利用者に提供する。
指標の説明	図書館が所蔵していない資料で、利用者の希望を受けて他市等の図書館から借受して貸出を行った資料冊数			

### 5 課題解決支援、ボランティアとの連携、利用者の情報活用能力に関する指標（4項目）

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
5-1	レファレンス受付件数	1,446件	1,500件	近年、1,400件前後で推移している。利用者の調査研究や調べ学習を支援し、図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	中央図書館のカウンター、電話、電子メール等で受付をしたレファレンス件数			

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
5-2	ボランティア登録者数	151人	160人	例年160人程度を定員とし、募集を締め切っている。多様なボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティアの協力を得ることで図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	中央図書館の各ボランティアに登録した人数(複数のボランティアに登録している場合も1人として計算)			
5-3	ボランティア活動者数	1,918人	2,000人	令和5年度実績値の約1割増を目標値とする。多様なボランティア活動の機会や場所を提供し、ボランティアの協力を得ることで図書館サービスの充実を目指す。
指標の説明	中央図書館の各ボランティア活動に参加した延人数			
5-4	ボランティア等によるおはなし会等開催回数	192回	160回	おはなしボランティアによるおはなし会(月9回)、図書館職員によるおはなし会(月2回、8月なし)、地域文化ボランティアによるブックトーク等(月2回)、おはなしボランティアによる人形劇・パネルシアター(年2回)、その他様々な形式のおはなし会を随時開催し、読書推進を図る。
指標の説明	図書館ボランティア・図書館職員が実施したおはなし会・ブックトーク・パネルシアター等の開催回数(学校訪問ブックトーク事業については積算しない。)			

#### 6 学校図書館等支援に関する指標 (6項目)

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
6-1	団体貸出利用回数	100回	200回	令和5年度の目標を継続し、新型コロナウイルス感染症流行前の水準(令和元年度:約250回)に戻すことを目標とする。
指標の説明	団体貸出を利用した団体の延利用回数			
6-2	団体貸出図書冊数	8,703冊	10,000冊	新型コロナウイルス感染症流行前の水準(令和元年度:約10,000冊)に戻すことを目標とする。
指標の説明	保育所・幼稚園・小学校・児童クラブ・福祉施設等の団体に対しての図書の貸出冊数(1回につき1団体300冊まで3か月間貸出可能)			
6-3	社会科見学等の図書館見学受入回数	5回	10回	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の推進を目指す。
指標の説明	保育所・幼稚園・小学校・義務教育学校・特別支援学校等による図書館見学の受入回数			
6-4	職場体験学習受入人数	25人	40人	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の推進を目指す。
指標の説明	8年生(中学2年生)を対象とした職場体験の場として、中央図書館で図書館業務の体験学習を受け入れた生徒の人数			
6-5	ジュニア図書館員受入人数	56人	75人	読書活動の普及を図るため、受入体制の充実に努め、読書活動の向上を目指す。
指標の説明	5年生から6年生を対象にした体験型事業「ジュニア図書館員」に参加した児童の人数			
6-6	学校司書等の研修参加人数	51人	50人	学校図書館との連携を強化し、学校司書の研修等を支援することで、読書活動の推進を目指す。(令和6年度学校数:50校、学校司書人数:56人)
指標の説明	学校司書等を対象に実施される研修の参加人数			

#### 7 市民満足度に関する指標 (1項目)

No.	目標指標	参考値	目標値	目標値の設定理由
		令和5年度実績		
7-1	利用者満足度調査の満足度	83%	80%以上	図書館利用者の満足度を把握し、利用者の声をサービスに反映させることで図書館運営の向上を目指す。令和5年度までは中央図書館の利用者のみを調査対象としていたが、令和6年度以降、調査対象を広げて実施予定。
指標の説明	図書館利用者に対して図書館サービスについての満足度調査を実施し、「満足」「やや満足」と回答した人の割合			